

仁生会の歴史つづる

「じんせい」150号に寄せて

昭和62年1月に創刊した医療法人仁生会の院内報「じんせい」は、今月号で150号を迎えた。父・高行の死後、細木病院に帰った私は、職員の名前と顔が一致せず、大変困ったことがきっかけで、多くの新しいスタッフはもっと苦労しているのではないか……と考えたのが「じんせい」発刊の直接の動機だったのです。

最初の発刊目標は、職場の

接の動機だったのです。

皆様の親睦と新しい知識吸収の場を作ることでありました。そして何時、間にか、部数も800から2,200まで増加してきました。

皆様のおかげで、「医療相談」や「院外エッセイ」などユニークな記事や催して、院OBの皆様、入院・外来の患者など多くの方々に読まれています。また同時に「じんせい」は、医療法人仁生会の歴史をつくるという大切な側面を持つています。

仁生会理事長
(細木病院院長)
細木 秀美

仁生会は年々大きくなり、職員数も800人を数えるようになりました。仁生会の現在の蒲原豊君にとつながつてあります。院内の職員の中からも編集委員が選ばれて、毎月の編集プラン作成を助けています。

これからも職員はもちろんのこと、たくさんの皆様に発刊を楽しみに待たれるよ

うな魅力ある院内報とし

面も持っています。

当初は高知新聞社会福祉事

業団の松岡正一前理事長にご

紹介いただきました周藤春男

さん、横田陽誠さんに編集長

として腕を揮っていただき、

月の編集プラン作成を助けて

います。

これからも職員はもちろん

のこと、たくさんの方々に発

刊を楽しみに待たれるよ

うな魅力ある院内報とし

て、広く愛され、読まれ

ることを心から希望して

います。今後ともよろしくお願い申し上げます。

歴代編集長

「じんせい」150号を記念して、院内報を内外に定着させ、ここまで発展させた原動力といえる、歴代編集長を紹介いたします。



横田 陽誠
第2代編集長



周藤 春男
初代編集長

「じんせい」はそのための重要な道具として、内容を充実させながら200号、300号と情報発信していくたいと思います。

「じんせい」はそのための皆様に、今、仁生会が何を考え、何をやっているのか、また何をやろうとしているのかを知っています。今後ともよろしくお願い申し上げます。

「じんせい」の第4号(昭和62年4月号)には就職当時の私の若い顔が載っています。あれから12年、「職場めぐり」やディーケアでの行事などを度々紙面に登場させていただきました。

母(仁生会OB)の気持ち(想い)を知り、ホロリとするごとに「じんせい」を通して何度も改めて感じます。本当に記事が多くて編集会では、本当に記事が多いです。うれしいかぎりです。

毎月の発行を心待ちして下さる多くのファンがおられま

す。私もその一人です。これからも温かくて、元気な「じんせい」作りに頑張りたいと思います。

よりよい紙面を目指して、私と「じんせい」の出会いは、私が看護学生として三愛病院に勤め始めた時です。毎号楽しみにしていました。

「結婚・出産おめでとう」に載ったり、婦長の紹介記事を書いたりしているうちに、どう「じんせい」の編集委員になってしまった。これからも、よりよい紙面がだんだん年齢を重ねてしまふことでしょうか……。

私は、本当に会議で、細木病院

は、私が看護学生として三愛病院に勤め始めた時です。毎号クロスワードパズルを作つてから、もう50号過ぎてしましました。あつという間に時間が過ぎたのを、改めて感じています。

先日ある会議で、細木病院の仁尾在宅医療部長が「これからは競争。他に勝たないと生き残れない」と発言されました。本当にそうだと実感させられました。

現在の「じんせい」は、院内報としての位置づけですが、今後いかに仁生会の活動を情報として院外に発信すべきかなどが、大きな課題です。150号を期に編集委員としての責任を痛感しています。

院外発信が課題

仁生会本部

浜口 一盛

「じんせい」を通しての位置づけですが、今後いかに仁生会の活動を情報として院外に発信すべきかなどが、大きな課題です。150号を期に編集委員としての責任を痛感しています。

的確な情報を

細木病院 堀川 三紀

「じんせい」の第一号発行は昭和62年。この年、私の長女が生まれ、現在、小学校6年生になりました。私にとって、本当に駆け足で過ぎていったような気がします。

多忙な勤務の中、夜間、詰

話題満載の院内報
土佐看護専門学校 黒岩 京子

「じんせい」の第4号(昭和62年4月号)には就職当時の私の若い顔が載っています。あれから12年、「職場めぐり」やディーケアでの行事などを度々紙面に登場させていただきました。

また「じんせい」を通して、

これからも、的確な情報、そ

して温かみのある出来事を、

皆様にお伝えできるように頑張りたいと思っています。

「じんせい」

101号(平成7年5月号)~150号までの足どり

◇平成7年7月=題字が山崎喬庶務課長に変更

◇10月=題字は福留靖子薬剤科長

◇12月=7年の「仁生会10大ニュース」で、老人保健施設あうん高知オープンがトップ

◇8年1月=題字は山崎利二事務部長に。1面のカラー写真はパミールのレーニン峰。新企画「作って食べる料理教室」スタート

◇4月=題字は大井淳1病棟婦長

◇7月=題字は松井慶子栄養管理室長

◇10月=題字は棚田秀子看護部長

◇12月=12月号は仁生会創立50周年で特集号。座談会を掲載し増ページ。8年の「仁生会10大ニュース」は、細木病院の新館完成がトップに

◇9年1月=題字は松田勇蔵医局長に。1面のカラー写真は、中国・桂林の朝日。仁生会創立50周年記念式典の模様を特集

◇3月=三愛病院浜田育哉事務長の退職を特集、増ページに

◇4月=題字は豊田澄子総婦長

◇7月=題字は近沢仁夫企画管理部長

◇9月=細木病院の多田一義名誉副院長の追悼特集

◇11月=北村宗生外科部長の題字

◇12月=10年の「仁生会10大ニュース」で、細木ユニティ病院誕生がトップに

◇10年1月=新年号1面のカラー写真はグアム島の朝日。青山信彦名譽副院長退職で特集。8面の仁生会職員のカラー写真は3枚から4枚に

◇2月=題字は中屋公子総婦長に。青山信彦名譽副院長退職の特集

◇5月=題字は浜田国繁施設課長

◇7月=細木ユニティ病院の山崎利二事務部長の追悼特集

◇8月=題字は瀬川進麻酔科部長

◇11月=題字は喜多村勇仁生会顧問

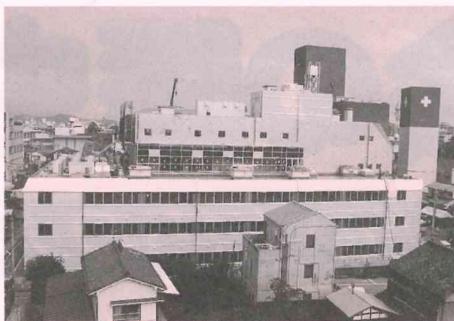
◇12月=10年の「仁生会10大ニュース」で山崎事務部長の急逝がトップ

◇11年1月=新年号1面のカラー写真は、奈良市飛火野の初日の出

◇2月=題字は細木ユニティ病院高坂要一郎院長

◇5月=題字は日高クリニック松本和博院長に。あうん高知面新設

◇6月=「じんせい」150号に到達



細木病院の新館オープン
(平成8年11月)



老人保健施設「あうん高知」オープン
(平成7年8月)



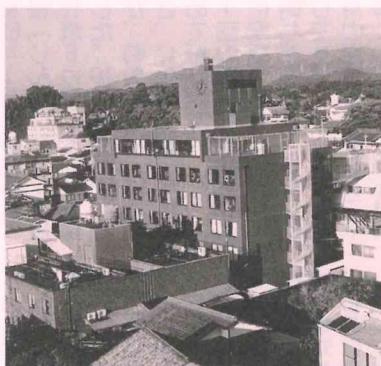
日高クリニックが開院
(平成8年12月)



細木病院の老人デイケア「ゆうゆう」
が院長らのテープカットでスタート
(平成8年12月)



盛大に挙行された仁生会創立50周年記念の祝賀会
(平成8年12月)



細木ユニティ病院の誕生
(平成9年4月)



日高クリニックで
始まる
(平成9年4月)
老人デイケア



山崎 利二
事務部長
(平成10年5月) 多田 一義
名誉副院長
(平成9年8月)



世界的なジャズピアニストを招いた細木
ユニティ病院の演奏会
(平成10年10月)